

## 自院の現在地

### 自院の役割と機能の再確認

- 東京工業大学との統合  
2024年10月～  
東京科学大学 (SCIENCE TOKYO)
- 東京都と連携した地域医療への貢献
  - 都内最大数のコロナ重症患者受入
  - 強化された高度急性期医療 & 救急医療機能 (C棟新設)
- 二次医療圏における高齢者人口の大幅な増加予測
  - 2050年→2020年対比 68%増
- 歯科におけるトップランナー
  - QS大学ランキング (歯学分野)  
→世界4位・日本1位
- 施設老朽化
  - 医科棟築33年、歯科棟築43年
- 物価高騰
  - 光熱費、業務委託費、工事代等
- 診療参加型臨床実習、医師・歯科医師臨床研修の積極的な受入
- 国内最大級の歯科データを含む医療データを保有

## 改革

**診療・教育・研究における大学病院としての使命を医師の働き方改革を推進する中で全うするために、病院のあり方を抜本的に見直し改革を断行する。**

### 病院内の研究支援体制の強化

- 東京工業大学との統合による新たな医歯理工連携への挑戦  
～病院内への医療工学推進コア開設～
  - MD (Doctor of Medicine) と non-MDの理工学研究者及び企業の研究者が協働する場  
→医療現場を起点とした医歯理工連携※東京工業大学との統合時に開設
- 臨床研究支援部門の人員増強
  - 臨床研究支援者 34→74名 (+40)
  - 事務職員 6→16名 (+10)※「高度医療人材養成拠点形成事業」として補助金を申請中
- 臨床研究支援部門の組織再編
  - 立案・計画支援部門 (大学組織) と 実施支援部門 (病院組織) を統合  
→病院長のもとワンストップでの支援体制

人材・財源を確保し強化

強化した体制を活用

### 人材並びに財源を確保するための戦略

- 軸となる戦略  
病院再整備の過程 (向こう10年程度で既存施設を順次改修) で、
  - ・ 病床数を縮小 (813→603→657床) するが、
  - ・ 手術室を増やし (18→24室)、高度急性期医療の強化・充実を図ることにより、病床数減に伴う収益の落ち込みをカバーし、
  - ・ 更に、医師数を維持することにより、教育・研究時間を確保する。
- 運営改革
  - 病院経営戦略会議、病床運用改革、人員配置適正化、処遇改善、ダイバーシティへの取組
- 診療改革
  - 東京都との連携、都立病院機構との包括協定、地域連携
  - 医師の働き方改革への対応、ICT・医療DX活用、PACU新設
  - TMDU感染症センターの設立、長寿・健康人生推進センター、先端歯科診療センター、災害危機管理部の設置など
- 経営・財務改革
  - 収益増に係る各取組、施設・設備・機器の整備とコスト抑制の両立

大学病院の魅力向上→人材が集まる拠点  
新たな財源の確保

### 強化した病院内の研究支援体制を活用した教育・研究改革

- 教育改革→臨床教育を通じた質の高い医療人材の育成
  - 臨床実習統括部門の整備、実習指導医・教育支援者の充実、理工系学生との連携教育の整備、術野映像システムの導入
- 研究改革→世界の医学・歯学をけん引する優れた研究成果の創出
  - 医療データ社会還元→外部との共同研究推進による新たな財源、医療工学推進コア、最先端口腔科学センター

改革を踏まえた収支計画 (2024～2029年度) → **診療・教育・研究における大学病院としての使命を果たす中で収支均衡を維持**